

項番	発言者	意見内容	区の考え方
1	委員	台東区として、高齢化の進行は大きな課題であり、国の基本方針にも、東京圏の医療介護について課題出しされている。台東区の人口ビジョン、総合戦略にも、医療介護といった高齢化対策を書き込む必要があると考える。	高齢化率については、かつては23区中トップであったが、現在は3位となっています。人口動向の分析からも、高齢化は比較的緩やかに進行していることがわかります。 委員のご意見にあるように、医療介護は国のまち・ひと・しごと創生基本方針にも位置付けられており、区としても今後取り組むべき重要な課題です。 そのため、人口ビジョンにおいて、65歳健康寿命の延伸や、高齢者の方が元気にいきいきと暮らしていける環境整備の必要性などに触れ、総合戦略では、基本目標「健康で心豊かに生活できる環境の整備」の中で、区としての考え方を記載して、地域での健康づくりや地域医療体制などについて、具体的な取り組みを記載しています。 また、既存計画である「第6期台東区高齢者福祉計画・台東区介護保険事業計画」と十分連携を図って、総合戦略の取り組みを進めてまいります。
2	委員長	長期総合計画では高齢者福祉について記載されているが、人口ビジョンにおいても、推計する人口水準を維持・確保していくためには、若年層だけではなく、高齢者の方も長生きしてもらうような視点も総合戦略で入れていただきたいと思う。	
3	副委員長	台東区の待機児童数は、他区と比べて高い数値ではない。就学期を見据えて0～4歳の人口が流出している可能性もあることから、学童期の生活や教育といったことも支援していく必要があると考える。	国の長期ビジョンにおいて、人口減少克服に向けた若年層への子育て支援が大きな目的の一つとなっていることから、区の人口ビジョン、総合戦略についても子育て施策に重点を置いた構成としています。 学童期の生活面に関する取り組みについては、基本目標「若い世代の妊娠、出産、子育ての支援」の中で、子どもクラブ整備や、医療費助成などについて、基本目標「住み続けられる暮らしやすい地域環境の整備」の中で、通学路への防犯カメラ設置や青少年教育などについて記載しています。 また、教育分野の施策については、目指す学校教育の方向性を示す「台東区学校教育ビジョン」、及び実行計画である「学びのキャンパス台東アクションプラン」を定めて、取り組みを進めております。 今回の総合戦略では、教育分野としての施策立ては行っておりませんが、既存計画と十分連携を図って進めてまいります。
4	委員	今現在、区内で育っている子供たちに向けて、その子供達が育ったときに台東区で住み続けたいと思ってもらえるような教育施策を総合戦略に盛り込んでもらいたい。	委員のご意見にあるように、子供達が台東区に愛着を持ってもらい、住み続けたいと思うこともまた、定住促進につながると考えます。
5	委員	まち自体が持つ暮らしぶりの良さや文化的で自然に恵まれた空間など他にはないまちの魅力が台東区にはあると考える。まちの魅力を観光資源としてだけではなく、住み続けるために、今ある景観や暮らしぶりを残していくといったことが総合戦略に盛り込めれば良いと思う。	まちの魅力を高めていくことは、対外的に選ばれるまちとなり、区のイメージアップ、定住促進にもつながると考え、総合戦略の基本目標「国際文化観光・交流都市の形成」を定めております。 この基本目標の中に、施策の方向「地域固有の歴史・文化の活用」として、区の文化施策を位置づけて、区の歴史・文化の普及啓発や学ぶ機会の提供、文化施設等の活用といった取り組みを盛り込んでいます。
6	委員	最近、文化的な趣きを好む若い世代が増えているように感じる。そういった世代に住んでほしいということを見ると、文化と教育など、区の特長である文化を打ち出したものを総合戦略に盛り込むことも効果的であると考えます。	
7	委員長	住宅統計を見ると、台東区は戸建て住宅はほとんどふえていなくて、集合住宅が増加して、それが若い人たちの転入の受け皿になっていると思われる。 将来的に、劣化していく住宅が増加して、集合住宅の空き家率も高くなっていく。スラムのような状況になってしまうということを見ると、住宅ということをどう考えるか検討する必要があると考える。	定住性の向上を図るうえで、委員長のご意見にあるように、住宅施策は重要であると考えます。 そのため、総合戦略においても、基本目標「住み続けられる暮らしやすい地域環境の整備」の、施策の方向「都市の利便性や快適性の向上、住みやすい環境の整備」の中で、良質な住宅・良好な住環境の整備促進の施策を盛り込んでおり、老朽マンションの建替え・改修に対する支援など集合住宅の適正管理に向けた支援について記載しています。